

平成21年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ(基本事項)				整理番号	4 - 3 - 23
事務事業名	放課後子ども環境整備事業			担当課係	児童福祉課
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	その人がその人らしく住める地域社会		内線等	
	小項目	5. 地域において安心して出産し、子育てできる環境の整備		E-mail	
事業の実施主体	市(委託・補助事業含む)			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	3	民生費	項	3
	目	1	児童福祉総務費	事業	5
開始年度	平成	21	年度	根拠法令・要綱等	放課後子どもプラン推進事業実施要綱、児童環境づくり基盤整備事業費補助金交付要綱、小松島市放課後児童健全育成事業実施条例

事務事業の概要(実施内容)

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 南小松島学童保育クラブを利用する児童とその保護者及び指導員
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 「放課後児童ガイドライン」並びに「小松島市放課後児童クラブ設置運営基準」に基づく、施設運営基準による適正な規模での運営とする。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 児童環境づくり基盤整備事業費補助金を活用し、現在の南小松島幼稚園の2階部分にあたる倉庫室を南小松島第2学童保育クラブ室として供用できるよう改修・階段設置等の工事を行い、併せて南小松島幼稚園側も遊技室における空調設備・電気関係工事等に加え、これまで倉庫室に保管していた備品等の倉庫設置等を行う。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 平成19年度に、適正な人数規模へのクラブ移行を図るため、71人以上の大規模放課後児童クラブへの国庫補助金が廃止されたことに伴い、既設の南小松島学童保育クラブの登録児童数が71人を超える見込みがあり、補助金廃止対象クラブに該当することが懸念されることに加え、南小松島学童クラブ運営委員会からの「施設分割増設を求める嘆願書」も提出された経緯等を踏まえ、現在の南小松島幼稚園2階施設部分等を改修し、南小松島第2学童保育クラブ室を開設するに至った。

事務事業の業績・推移(目標・実績)

成果指標	指標名		指標の説明					指標化できない成果
	単位	H20	H21	H22	H23	将来目標		
						(年度:平成)		
目標								
実績								
達成度								
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H20	H21	H22	H23	指標の説明	
	南小松島学童保育クラブ年間平均受入児童数	人					実績:影響を受ける児童数として、分割した第一及び第二の合計人数とした。	
	南小松島学童保育クラブ指導員人数	人					実績:影響を受ける児童数として、分割した第一及び第二の合計人数とした。	

事務事業に係るコストの業績(目標・実績)

(単位:円)

		20年度決算	21年度決算	22年度決算	21年度予算	
全体コスト(円)	A 直接事業費		7,186,200	0	7,187,000	
	財源内訳	国庫支出金		2,673,000		
		地方債		3,900,000		
		利用者負担		0		
		一般財源		613,200		
	B 人件費	x		722,732	0	
	職員平均人件費			7,227,324		
従事した割合	人		0.1			
A + B			7,908,932	0		
単位コスト	活動指標の説明		利用人数(年間平均受入児童数+指導員数) 85人		備考	
	活動指標1単位当たりコスト		93,046		平成20年4月1日現在 人口42,133人	
	市民一人あたりのコスト		189		平成21年4月1日現在 人口41,778人	

事業を取り巻く環境

<p>国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測</p>	<p>(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 平成19年、国により「放課後児童クラブガイドライン」が策定され、規模については、「放課後児童クラブにおける集団の規模については、おおむね40人程度までとすることが望ましい。また、1放課後児童クラブの規模については、最大70人までとすること。」との規程があり、これを受け、「放課後児童健全育成事業」においても、71人以上の放課後児童クラブについては、国庫補助制度はあるが、分割促進のため補助対象となっていない。</p>
<p>事業に対する住民の意見</p>	<p>(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 本事業は、少子化、女性の社会進出、核家族化等の社会変化に対する「児童福祉施策(放課後、保護者が就労等により不在である家庭の児童へ遊びと生活の場を与え、健全育成を図る)」として行われているが、「仕事と家庭の両立支援」を行なうことから、子育て支援や労働施策的な面も併せ持つ。現状として、入室申請児童数は増加傾向にあり、学童保育事業の需要と役割は増大している。</p>

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
<p>必要性 (市民ニーズ)</p>	<p>必要性が高い どちらかといえば必要性がある 必要性が低い 必要性がない</p>	<p>放課後児童クラブの適正規模での運営は、児童の放課後の安全な居場所を確保し、家庭の代替的機能を保持し、健全な育成を図るために、必要性が高い。</p>
<p>妥当性 (市で行わなければならないか)</p>	<p>市が行わないといけない どちらかといえば市で実施 必然性が低い 必然性がない</p>	<p>児童環境づくり基盤整備事業費補助金を活用していることあり、公設民営として、事業委託により実施している本事業は、「小松島市放課後児童クラブ設置運営基準」にあるように、必要な地域すべてに放課後児童クラブを設置し、児童の毎日の生活が安定的に保障されるよう条件整備を推進することが市の責務である。</p>
<p>効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)</p>	<p>効率的である どちらかといえば効率的 どちらかといえば非効率的 非効率的</p>	<p>補助金を活用した事業として、国のガイドラインに沿った児童数の適正化に図られることから、効率的である。</p>
<p>緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)</p>	<p>緊急性が高い 比較的緊急性がある 緊急性が低い 緊急性はない</p>	<p>適正規模数を超える場合は、児童の情緒面への配慮及び安全性の確保に欠ける状況が懸念され、また、国庫補助金も対象外となり、実質運営の存続が困難となる事態が想定される。</p>
<p>成果 (目的の達成状況)</p>	<p>成果が上がっている どちらかといえば上がっている どちらかといえば上がっていない 成果は上がっていない</p>	<p>放課後児童対策として適正な施設整備の推進を図られることにより、利用児童の処遇が向上した。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>核家族化や共働き世帯の一般化に伴い、放課後児童クラブ利用児童数も増加傾向にありニーズは増大している中で、国や本市の基準に沿って、児童の処遇向上を図るために、喫緊に移転改修や分割促進などの環境整備が必要な放課後児童クラブがあるが、移転先等の事前準備が進んでいない。</p>	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

<p>評価</p> <p>2</p>	<p>1 拡 充 す る 80 点 以上</p> <p>2 現 状 の ま ま 継 続 す る 60 ~ 79 点</p> <p>3 改 善 ・ 効 率 化 し 継 続 50 ~ 59 点</p> <p>4 見 直 し の 上 縮 小 す る 40 ~ 49 点</p> <p>5 終 期 設 定 し 終 了 30 ~ 39 点</p> <p>6 休 止 20 ~ 29 点</p> <p>7 廃 止 19 点 以下</p>	<p>評価点による判定</p> <p>評価点 93</p> <p>1</p>	<p>判定に至った理由</p> <p>南小松島学童クラブ運営委員会からの「施設分割増設を求める嘆願書」も提出された経緯等もあり、本年度開設出来た事は、放課後児童対策として適正な施設整備の推進を図る上でも評価できる。今後も適正化の推進を図るため、地域資源等を活用した環境整備が必要である。</p>
---------------------------	--	--	---

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

<p>評価</p> <p>2</p>	<p>1 拡 充 す る</p> <p>2 現 状 の ま ま 継 続 す る</p> <p>3 改 善 ・ 効 率 化 し 継 続</p> <p>4 見 直 し の 上 縮 小 す る</p> <p>5 終 期 設 定 し 終 了</p> <p>6 休 止</p> <p>7 廃 止</p>	<p>判断説明</p> <p>施設建設により、適正人数規模の施設運営が可能となり、クラブ内における放課後児童の安全性の確保と、現行の運営で生じている待機児童の解消が図られた。また、広義的には仕事と家庭の両立支援(ワーク・ライフ・バランス)の推進に繋がることとなり、今後も必要に応じて実施していく必要がある。</p>
---------------------------	--	---

平成21年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 4 - 18
事務事業名	介護予防一般高齢者施策事業			担当課係	介護福祉課 介護保険係
総合計画上の位置付け	大項目	2. 「安心」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	その人がその人らしく住める地域社会		内線等	
	小項目	2. すべての中高齢者参加できる利用しやすい健康づくり・介護予防体系の構築		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	3	地域支援事業費	項	1
	目	2	介護予防一般高齢者施策事業費	事業	1
開始年度	H	18	年度	根拠法令・要綱等	介護保険法第115条の44

事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 1号被保険者（65歳以上）のうち、介護認定並びに特定高齢者認定を受けていない一般高齢者。
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 現状では要介護状態になるリスクが低い高齢者に、介護予防活動の普及啓発や活動支援等の取組みを行い、本人のQ.O.Lを高く保ち、介護予防への取組みが自主的に実施されるような地域社会の構築を目的とする。
事業の内容 （内容・手法等）	（こういった仕事の内容で、どのような方法・手順で実施しているか） 介護予防健康教室・元気アップ教室・阿波踊り体操教室等や、脳の楽習サポーター養成・認知症サポーター養成等により、地域における介護予防に資する活動を実施した。
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 制度改正により平成18年度から、要介護・要支援認定を受けていない高齢者の介護予防を推進する「地域支援事業」が創設され、国費、県費、支払基金交付金（2号被保険料）が財源として充てられる。

事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名		指標の説明					指標化できない成果
成果指標	予防事業の延べ参加人数							認知症サポーター養成講座では、各地区の民生委員や中高生も対象に行なったことから、高齢者のみならず地域における介護予防に資する活動を実施し、支援できた。	
	単位		H20	H21	H22	H23	将来目標 (年度：平成)		
	人	目標	800	800	800	800			
		実績	608	1,291					
	達成度	76.0%	161.4%						
活動実績・参考となる指標	指標名		単位		H20	H21	H22	H23	指標の説明
				計画					
				実績					
				計画					
				実績					
				計画					

事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		20年度決算	21年度決算	22年度決算	21年度予算		
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	12,722,022	11,398,927	0	15,500,000	
		財源内訳	国県支出金	10,177,618	9,046,742		
			地方債				
			利用者負担		90,500		
		一般財源	2,544,404	2,261,685			
	B 人件費 ×	501,940	558,316	0			
	職員平均人件費	5,019,395	4,135,678				
	従事した割合 人	0.1	0.135				
	A + B	13,223,962	11,957,243	0			
	単位コスト	活動指標の説明	全体コスト/成果指標実績	全体コスト/成果指標実績		備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト	21,750	9,262		平成20年4月1日現在 人口42,133人		
	市民一人あたりのコスト	314	286		平成21年4月1日現在 人口41,778人		

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 国の地域支援実施要綱が平成22年8月6日付けで改正され、同日より適用される。主に、対象者の把握やケアプランの作成が見直された。地域支援事業の実施による、介護保険事業計画策定に係る日常生活圏ニーズ調査への活用が検討課題である。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 「介護予防事業に参加する事で心身共に健康でありたい。予防事業のサポートをさせて頂く事で自分自身も勉強させてもらっている。」等、事業自体については一般高齢者の他、サポーターにも好評であったが、「事業参加の場所に限りあり参加したくても足がない。」等の立地の利便性を求める声も少なからずあった。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント(具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	必要性が高い	健康づくりへの関心は非常に高まってきていることや、介護保険料負担の軽減の要請から市民ニーズは極めて高い。
	どちらかといえば必要性がある	
	必要性が低い	
	必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない	介護保険法第115条の44第1項1号に規定されている事業である。
	どちらかといえば市で実施	
	必然性が低い	
	必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	効率的である	保健師、主任介護支援専門員などの専門職を擁する地域包括支援センターが、福祉センターの施設を利用しながら実施するもので、効率的に行われている。
	どちらかといえば効率的	
	どちらかといえば非効率的	
	非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	緊急性が高い	介護保険法、地域支援事業実施要綱に則るもので、実施を先送りできるものではない。
	比較的緊急性がある	
	緊急性が低い	
	緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	成果が上がっている	運動指導等の効果を数値化するのには困難だが、参加者からは改善(体感による)との感想が多く寄せられている。また、各種教室の参加者は増加しており、普及啓発の面でも成果が上がっている。
	どちらかといえば上がっている	
	どちらかといえば上がっていない	
	成果は上がっていない	
今後の課題	より効果的な事業の実施のため、介護予防特定高齢者施策事業と本事業との相互に密な連携が必要である。	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	80点以上	評価点による判定		判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	60~79点	評価点	100	
2	3 改善・効率化し継続	50~59点	1	個別の事業は効果を検証しながら、常に取捨選択しているため、全体の事業規模としては、現状を維持したい。		
	4 見直しの上縮小する	40~49点				
	5 終期設定し終了	30~39点				
	6 休 止	20~29点				
	7 廃 止	19点以下				

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る	判定説明
		2 現状のまま継続する	
2	3 改善・効率化し継続	4 見直しの上縮小する	普及啓発、予防活動支援等の施策の選別は必要であるが、事業規模の縮小は考えにくい。
	5 終期設定し終了	6 休 止	
	7 廃 止		

平成21年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 2 - 7
事務事業名	公園管理事業			担当課係	都市整備課 管理・開発
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」		記入担当者	
	中項目	快適に暮らせる生活基盤の整備		内線等	
	小項目	2. 公園・広場・緑地の整備		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	経常事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	7
	目	2	公園費	事業	3
開始年度	平成	年度	根拠法令・要綱等	都市計画法、都市公園法、小松島市ステーションパーク設置条例、その他関係法令	

事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 市民全般
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 市民の憩いの場を作ること及び、保育園児等の遠足の間並びに、児童の課外授業の間を提供することで、市民生活の福利の向上を図る
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 職員及び委託業者による公園施設の定期的な清掃及び遊具の点検。小松島みなとまつり等各種イベント会場としての場所の提供。高齢者のスポーツを通じた健康づくりのための場所の提供。物産市等、小松島発の食文化の発信・起業家の育成支援。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 緑豊かな港湾都市をキャッチフレーズに、市民の憩いの場の一つとして公園施設を整備してきました。平成6年には総延長1.4kmの遊歩道が整備され、朝夕には多数の市民がウォーキング等健康づくりに励んでいます。

事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名		指標の説明				指標化できない成果
		施設の維持・管理		主に、施設の修繕				
成果指標	単位	H20	H21	H22	H23	将来目標 (年度：平成)		
	件	目標	2	3				
		実績	2	3				
達成度		100.0%	100.0%					

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H20	H21	H22	H23	指標の説明
	計画	実績						
たぬき広場ステージ修繕	計画		件	0	1			
	実績			0	1			
たぬき広場人口滝モーター修理	計画		件	0	1			
	実績			0	1			
ステーションパーク遊具修繕	計画		件	1	0			
	実績			1	0			
たぬき広場案内看板	計画		件	1	0			
	実績			1	0			

事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		20年度決算	21年度決算	22年度決算	21年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	12,847,595	23,635,831	0	24,444,000	
	財源内訳	国県支出金	0	0		
		地方債	0	0		
		利用者負担	535,200	535,200		
		一般財源	12,312,395	23,100,631		
	B 人件費 ×	1,410,397	1,367,736	0		
	職員平均人件費	5,641,589	5,470,945			
	従事した割合 人	0.25	0.25			
	A + B	14,257,992	25,003,567	0		
	単位コスト	活動指標の説明	施設の修繕	施設の修繕		備考
活動指標 1 単位当たりコスト		7,128,996	8,334,522		平成20年4月1日現在 人口42,133人	
市民一人あたりのコスト		338	598		平成21年4月1日現在 人口41,778人	

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 企業のCSR活動及び、アドプト制度の普及並びに、市民のボランティア活動の拡大により、住民協同型の公園管理事業の普及が望まれる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 老朽化及び、いたずら等による破損施設の修繕。特定のグループによるSL記念広場休憩施設の占拠問題。ステーションパーク周辺における野良猫の繁殖による糞尿の悪臭等の問題。自転車歩行者専用道路内の植栽(特にやまもも)の間引き(伐採)の要望。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="checkbox"/> 必要性が高い	市民生活の福利向上のため、今後も公園施設の維持、改善に取り組む必要がある。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> 必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="checkbox"/> 市が行わないといけない	公園施設の維持管理を全て民間委託した場合、相当の費用負担が見込まれる。さらに、一部施設においては、営利目的での使用も可能であることから、市主導による管理が望ましい。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば市で実施	
	<input type="checkbox"/> 必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 効率的である	平成22年度より土木工事及び、簡単な建築工事ができる嘱託職員を採用したことにより、直営工事の割合が多くなったことで、相当額の経費を削減することができた。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば効率的	
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば非効率的	
	<input type="checkbox"/> 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="checkbox"/> 緊急性が高い	安全性・快適性において、改善が必要な施設がある。
	<input type="checkbox"/> 比較的緊急性がある	
	<input type="checkbox"/> 緊急性が低い	
	<input type="checkbox"/> 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="checkbox"/> 成果が上がっている	限られた予算内で、可能な限り公園施設の維持管理を行っている。職員による池の清掃及び、嘱託職員による施設の修繕等で、経費の節約に努めている。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている	
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっていない	
	<input type="checkbox"/> 成果は上がっていない	
今後の課題	最近、イタズラによる公園施設の破損が増加している。当該施設は、比較的高価であるため、市財政の負担となっている。他県では、市民ボランティアによる公園等公共施設の見回りを行っている自治体もあり、本市においても検討すべきである。	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	評価点による判定		判定に至った理由
		評価点	判定	
2	1 拡充する	80点以上	2	施設の老朽化により、修繕・交換工事をすべき施設が多くあるが、予算の都合で先延ばしされてきた。職員ができる修繕工事等は可能な限り実施しているが、技術的、予算的問題から限界がある。
	2 現状のまま継続する	60~79点		
	3 改善・効率化し継続	50~59点		
	4 見直しの上縮小する	40~49点		
	5 終期設定し終了	30~39点		
	6 休止	20~29点		
	7 廃止	19点以下		

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

専門的知識・技術を備えた嘱託職員の増員及び、PFI事業の導入及びアドプト制度の拡充。
市民ボランティア活用のシステム化。

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	判定説明
2 現状のまま継続する		
3 改善・効率化し継続		
4 見直しの上縮小する		
5 終期設定し終了		
6 休止		
7 廃止		

平成21年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	5 - 7 - 4
事務事業名	通常開催事業			担当課係	競輪局 管理場外担当
総合計画上の位置付け	大項目	その他		記入担当者	
	中項目	その他		内線等	
	小項目			E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	經常事業
事業予算費目	款	1	競輪事業費	項	2
	目	2	開催費	事業	3
開始年度	昭和 25	年度	根拠法令・要綱等	自転車競技法・自転車競技施行規則・小松島市自転車競走事務条例	

事務事業の概要（実施内容）	
事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 全国競輪ファン
事業の目的（意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 自転車その他の機械の改良及び機械工業の合理化並びに社会福祉の増進、医療の普及、教育文化の発展、体育の振興、その他住民の福祉の増進を図るために、その施策にかかる必要な経費の財源を確保し、地方財政の健全化を図ることを目的とする。
事業の内容（内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） F 開催 7 節 2 1 日及びF 開催 1 1 節 3 3 日の計 5 4 日間を開催。また、F 開催では、中四国の競輪場等を中心に臨時場外車券売場を設置し、車券発売等を行う。
事業の背景（経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 昭和25年より競輪場の指定認可を受け、第1回町営競輪を開催。翌年には、市制施行にともない「小松島市競輪」と改称し、同年7月に開設記念競輪を開催。

事務事業の業績・推移（目標・実績）								
成果指標	指標名	指標の説明					指標化できない成果 ・天候等による入場者の増減に伴う売り上げへの影響。	
	車券売上額	小松島本場(サテライト鴨島・江田SC含む)・電話投票・各場外車券売場(競輪場・専用場外)での54日間の車券売上額。						
	単位	H20	H21	H22	H23	将来目標 (年度:平成)		
	千円	3,030,000	3,561,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000 平成25年度		
	目標	3,030,000	3,561,000	3,500,000	3,500,000			
	実績	3,097,900	3,398,053					
	達成度	102.2%	95.4%					
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	H20	H21	H22	H23	指標の説明	
	入場者数	人	計画	100,000	100,000	100,000	100,000	本場の入場者数(サテライト鴨島・江田SC含む)
			実績	79,370	79,431			
	F 開催時の場外競輪場日数	日	計画					併売場含む
			実績	15	62			
	F 開催時のサテライト等専用場日数	日	計画					併売場含む
実績			47	138				
			計画					
			実績					

事務事業に係るコストの業績（目標・実績）		（単位：円）				
全体コスト（円）	関連事業費	A 直接事業費	20年度決算	21年度決算	22年度決算	21年度予算
		財源内訳	3,714,820,541	3,980,796,557	0	4,130,499,000
		国庫支出金				
		地方債				
		利用者負担				
		一般財源				
		B 人件費 ×	54,083,016	3,023,082	0	
		職員平均人件費	6,009,224	6,046,164		
		従事した割合 人	9.0	0.5		
		A + B	3,768,903,557	3,983,819,639	0	
単位コスト	活動指標の説明	入場者	入場者		備考	
	活動指標 1 単位当たりコスト	47,485	50,154		平成20年4月1日現在 人口42,133人	
	市民一人あたりのコスト	89,452	95,356		平成21年4月1日現在 人口41,778人	

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 急激な景気悪化による売り上げ落ち込みの影響を受け、2002年に廃止された西宮・甲子園・門司競輪場に続き、2010年3月31日をもって花月園競輪場が廃止される。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 現在設置の車券発売機等については、十数年経過する旧機種であり、車券購入時の障害も多々見受けられる。そのため、他の公営競技や他の競輪場を利用するファンからの苦情も多い。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント(具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	必要性が高い	競輪ファンの年齢層の高齢化や記念競輪開催に比べて、出場選手が下位の選手になることから、来場者数も少ない。
	どちらかといえば必要性がある	
	必要性が低い	
	必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	市が行わないといけない	市が持つ施行権のもと、事業実施を行っている。
	どちらかといえば市で実施	
	必然性が低い	
	必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	効率的である	臨時従業員の指定休の撤廃、退職者不補充等により対応。
	どちらかといえば効率的	
	どちらかといえば非効率的	
	非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	緊急性が高い	臨時従業員の雇用や競輪開催にかかる関連委託業者等、競輪開催にかかわるものについては、必要性は高いと考えられる。
	比較的緊急性がある	
	緊急性が低い	
	緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	成果が上がっている	一般会計への繰り出しはできていない状況であるが、経費削減についても限界がある。
	どちらかといえば上がっている	
	どちらかといえば上がっていない	
	成果は上がっていない	
今後の課題	各競輪場において、新システムの導入がされているが、発生する障害等にも迅速に対応し、円滑な業務運営が行えるよう、関係機関等との連携を密にする必要がある。	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80点以上	評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	60~79点		
3		4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	6 休 止	53	競輪ファンの年齢層の高齢化が進み、娯楽の多様化や長引く不況により、車券売上の減少が続いている。経費の削減については限界があると思われるが、業務の効率性を高める等により、引き続き、収益確保を目指す必要があることから、「改善・効率化し継続」と判定した。
		7 廃 止	19点以下			

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

F I 開催における臨時場外車券売場の設置数の拡充を図る等により、収益確保に努める。

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明
		2 現状のまま継続する	3 改善・効率化し継続	
3		4 見直しの上縮小する	5 終期設定し終了	本場開催・場外発売を合わせ、年間320日を超える開催を行い、それぞれ収益確保に努められているところであるが、今後においても厳しい経営状況が続くと予測される。引き続き、創意工夫を凝らし、経営努力に努めていただきたい。
		6 休 止	7 廃 止	